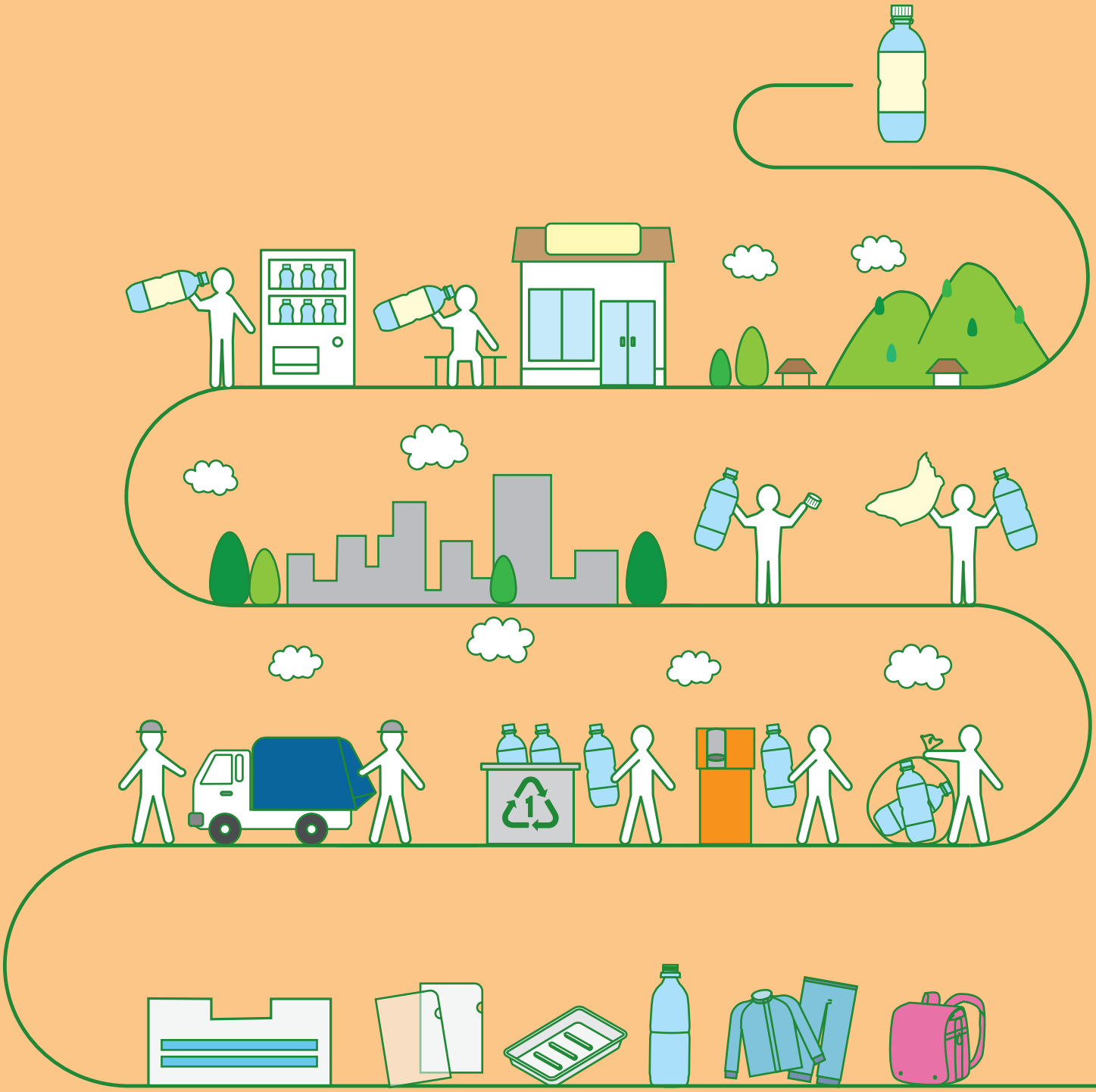
PETボトルリサイクル年次報告書2026



PETボトルリサイクル推進協議会

私たちは、みなさまにもっとPETボトルについて知っていただくための活動を行っています。

年次報告書2026編集にあたって

PETボトルリサイクル推進協議会（以下、推進協議会）は、もっとみなさまにPETボトルについて知っていただきたい、そしてPETボトルのリサイクルをもっと進めていきたい、という考えのもとに、1993年に設立された任意団体です。推進協議会は、PETボトルを利用する中身メーカー６団体と、容器および樹脂メーカーの団体であるPETボトル協議会の計7団体により運営されています。

この年次報告書は2001年以来、毎年発行しており、3R（リデュース、リユース、リサイクル）について3R推進自主行動計画にそって業界をあげて真摯に取り組んでいる状況や、その成果などをみなさまに知っていただくことを目的としています。

本報告書は自主行動計画2025（第4次自主行動計画（2021年度～2025年度））の5年目最終年となりましたので、その総括と2025年度の取り組みについて報告いたします。

自主行動計画2025では、従来の3Rの目標に加え、「水平リサイクルの推進」、「有効利用率」、「環境配慮設計の充実」などの新たな目標を設定いたしました。本報告書の中で2025年度の達成状況を公表しています。

私たちの生活になくてはならない容器として浸透しているPETボトル。そのPETボトルのリサイクルの必要性や循環型社会の大切さ、リサイクルの流れなどを知っていただくための啓発動画も好評です。Webサイト上より視聴いただけますので、合わせてご活用ください。

PETボトルリサイクル推進協議会について

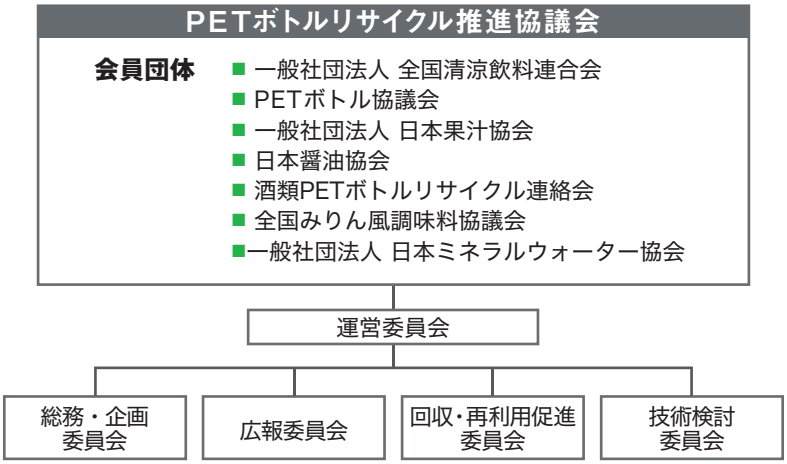
■設立
1993年6月22日

■会長
黒澤 和之


黒澤 和之 会長

■主な活動
3R推進活動
1. 3R推進自主行動計画の実施とフォローアップ
2. 使用済みPETボトルのリサイクル推進
3. PETボトルに係る正しい知識および情報の提供活動
4. 市町村分別収集への協力

■事業所所在地
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16　ニッケイビル2階
TEL：03-3662-7591　FAX：03-5623-2885



目　次

1. ハイライト P1
2. 3R推進自主行動計画2025の総括 P2
3. 3R推進自主行動計画2030の設定 P3
4. Reduce（リデュース） P4
5. Reuse（リユース） P5
6. Recycle（リサイクル） P6
7. 水平リサイクル P12
8. 有効利用 P12
9. 推進協議会の取り組み P13
10. 資料編 P16

1　ハイライト

2025年度 軽量化率は28.3%、リサイクル率は87.4% ともに目標達成

リデュース

2025年度も目標
「指定PETボトル全体で25%以上の軽量化（2004年度比）」を達成

2025年度

軽量化率

28.3%

（前年度比 0.2ポイント増）

削減効果量

241千トン

（前年度比 4.9%減）

P4-5参照 ➔

リサイクル

2025年度も目標
「リサイクル率85%以上の維持」を達成

2025年度

リサイクル率

87.4%

（前年度比 2.1ポイント増）

リサイクル量

国内 **471千トン**

（前年度比5.5%増）

海外 **82千トン**

（前年度比25.4%減）

P6-7参照 ➔

水平リサイクル

2030年度までに
ボトルtoボトル比率50%を目指す

2025年度

使用済みPETボトルの水平リサイクル

ボトルtoボトル比率※

40.0%

（前年度比 2.3ポイント増）

ボトルtoボトルリサイクル

253千トン

（前年度比 2.9%増）

※販売量に対するボトルtoボトルリサイクルされる量の比率

P12参照 ➔

有効利用

2030年度までに
PETボトルの100%有効利用※を目指す

2025年度

PETボトルの有効利用率

99.0%

（前年度比 0.3ポイント増）

※有効利用：リサイクルに熱回収を加えたもの

P12参照 ➔

2　3R推進自主行動計画2025の総括

各年毎の状況

2021年度	新計画の堅調なスタート	初年度、コロナ禍におけるライフスタイルの変化に対応しつつ、軽量化率は25.6%、リサイクル率は86.0%となり、ともに目標水準を達成しました。
2022年度	軽量化の進展と高いリサイクル率	「新型リサイクルボックス」導入など、飲料業界全体での回収精度向上の取り組みが活発化しました。
2023年度	軽量化率のピークと水平リサイクルの拡大	使用済みPETボトルを再度ボトルに再生する「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」の割合が33.7%（前年29.0%）に増加し、質的なリサイクルの転換が進みました。
2024年度	販売量増加にともなう動静脈連携の強化	指定PETボトル販売本数が前年比6億本増の287億本に達し、軽量化率は28.1%、リサイクル率は85.3%を維持しています。
2025年度	計画の最終成果と次のステップへの移行	「プラスチック資源循環促進法」や「資源有効利用促進法」の改正と連動し、さらなる脱炭素・資源循環への土台が築かれました。

表1. 推進協議会の3R推進のための自主行動計画2025の実施実績（2021年度～2025年度）

項目	目標	達成状況
Reduce リデュース	指定PETボトル全体で25%以上の軽量化（2004年度比）	●2025年度のボトル重量調査を、推進協議会を構成する7団体に行った結果、2004年度に比べ主要サイズ・用途17種の全てで4～42%軽量化が進み、5種で目標を達成した。 削減効果量は、5年間累積で1,133千トン、全体での軽量化率は28.3%となった。 計画期間全てで軽量化率25%以上を達成した。 （P4 図2「容器軽量化による削減効果量と軽量化率の推移」参照） （参考）2020年度（第3次自主行動計画最終年）と2025年度の比較 軽量化率：　25.3%（2020年度）→ 28.3%（2025年度） 削減効果量：177千トン（2020年度）→ 241千トン（2025年度）
Recycle リサイクル	リサイクル率85%以上の維持	●2025年度リサイクル率87.4%、リサイクル率目標「85%以上の維持」を、計画期間全てで達成した。 （P6 図6「リサイクル率と国内・海外再資源化量の推移」参照）
	リサイクル容易性の向上	●キャップ、ラベルを外し、簡易洗浄して分別排出することをWebサイトや広報誌などで自治体ならびに消費者へ広く広報活動を行った。 ●自主設計ガイドラインに不適合なボトルの改善を輸入・販売会社へ要請した（5年間で延べ77社に改善要請し、24件の回答を得た）。
水平リサイクル	ボトルtoボトル比率50%（2030年度まで）	●2021年度ボトルtoボトル比率20.3%から、2025年度40.0%に19.7ポイント増加、再生PET樹脂利用量も2021年度118千トンから2025年度253千トンと135千トン増加した。 （P12 図13「ボトルtoボトルへの再生PET樹脂利用量とボトルtoボトル比率の推移」参照）
有効利用	有効利用率100%（2030年度まで）	●2021年度から有効利用率98%以上を維持した。 （P12 図14「有効利用率の算出（概略図）」参照）
環境配慮設計	自主設計ガイドラインの充実	●プラスチック資源循環法に基づき制定された「プラスチック使用製品設計指針（告示）」に従い、「PETボトルの環境配慮設計指針」を策定した。また、PET樹脂の再利用に関して懸念される助剤・添加材の使用の禁止について、自主設計ガイドラインの改訂を行った。

容器包装3Rのための自主行動計画2030を策定 [2026年5月公表]

3R推進団体連絡会は、容器包装リサイクル法の対象である、ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、飲料用紙容器、段ボールの8素材の容器包装の3R推進に係る八団体により、2005年12月に結成されました。資源循環型社会の構築に寄与するため、容器包装リサイクル法に基づく分別収集と再商品化をはじめ、3Rを一層効率的に推進するため広範にわたる事業を行っています。

「容器包装3Rのための自主行動計画」は、2006年度から2010年度までの第1次自主行動計画以来、5年ごとの計画見直しを行っており、この度策定した「容器包装3Rのための自主行動計画2030」は、第5次自主行動計画に当たります。

※5か年計画策定にあたっての詳細はP13を参照ください。

PETボトルの自主行動計画2030

1. 3Rの推進目標

(1)石油由来樹脂の使用量削減 [新規石油由来樹脂削減率]

リデュースとリサイクルに加え、原材料として再生材およびバイオマス材の使用を推進して、石油由来樹脂の使用量(新規投入)を2004年度比65%削減します。新規石油由来樹脂の削減率は、製品の軽量化による樹脂の削減分と再生材・バイオマス材への代替による削減分を合わせた効果として算出します。

これを実現するために、以下(2)～(4)の個別目標を設定します。

(2)リデュース [軽量化率]

指定PETボトル全体で2004年度比30%以上の軽量化を目指します。

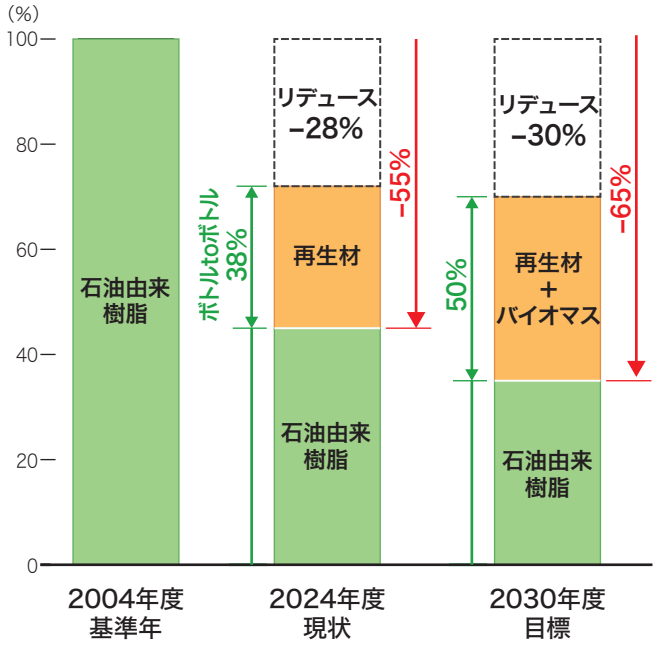
(3)リサイクル [リサイクル率]

リサイクル率85%以上の維持を目指します。

(4)水平リサイクル [ボトルtoボトル比率]

水平リサイクルであるボトルtoボトル比率50%を目指します。

図1. 3R・資源循環目標イメージ



2. 環境配慮設計の充実

- 「PETボトルの環境配慮設計指針」に基づき、環境配慮設計を推進します。
- ボトルtoボトルの進捗やラベルレス化など業界の取り組みに連動して、サステナブルなPETボトルの循環の観点から「指定PETボトルの自主設計ガイドライン」のさらなる充実を図るとともに、会員企業のみならず国内でPETボトルを使用して中身を販売する事業者(輸入業者を含む)への遵守要請の活動を行います。

3. 広報・啓発活動

消費者、自治体へ積極的に広報および啓発を推進します。

- 年次報告書、広報誌の発行と情報の周知(報道発表、webサイト、メールニュース)
- 展示会、地域イベントへの参加
- 普及・啓発ツールの作成およびリサイクルプラザなどへの提供
- PETボトルリサイクル推奨マークの普及推進

調査・研究活動

- PETボトルのマテリアルフローの調査精度向上
- LCAデータの充実
- 海洋プラスチック問題に係る科学的知見の調査・研究
- 海外でのリサイクルおよび資源循環の実態視察調査(東南アジア、欧州など)

4 Reduce（リデュース）

PETボトル軽量化の推進

2025年度 指定PETボトルの軽量化率は28.3%

推進協議会による3R推進のための自主行動計画2025において、「指定PETボトル全体で25%以上の軽量化（2004年度比）」を目標に設定しています。2025年度は、軽量化によるPET樹脂の削減効果量は241千トンにて、全体で28.3%の軽量化となり目標を達成しました（図2）。

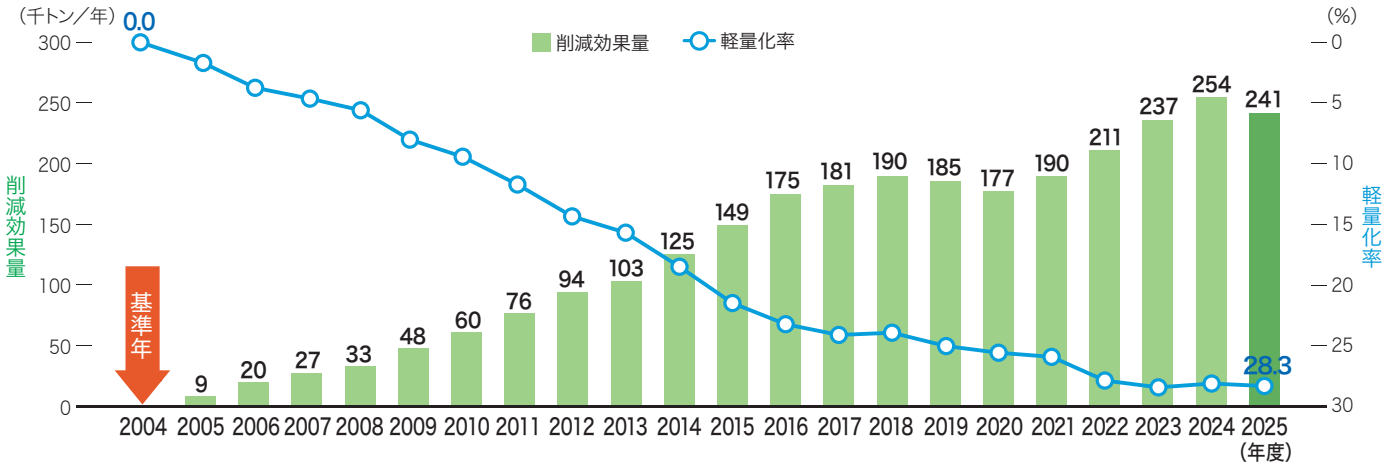
軽量化率算出方法

基準年に対して、軽量化が進展した当該年度のボトル総重量（A）を、軽量化が進展しなかったとした当該年度のボトル想定総重量（B）で除し、算出する。

$$=100-\frac{A}{B}\times 100\ (\%)$$

$$\text{軽量化率}=100-\frac{\Sigma\ [(\text{当該年度各ボトル単位重量})\times(\text{当該年度各本数})]}{\Sigma\ [(\text{2004年度の各ボトル単位重量})\times(\text{当該年度各本数})]}\times 100\ (\%)$$

図2. 容器軽量化による削減効果量と軽量化率の推移



2025年度指定PETボトル・主要17種軽量化実績

対象容器のうち主要17種については個別に軽量化目標を設定しています。2025年度は、17種のうち11種※1で前年度より軽量化が進み、また5種※2で、2025年度軽量化目標値を達成しました（図3）。今後も、さらなる軽量化に向けて努力を続けていきます。

※1 清涼飲料の耐熱350ml・500ml・2,000ml、耐圧1,500ml、無菌500ml・2,000ml、酒類2,700ml、みりん1,800ml、しょうゆ500ml・1,000ml・1,800ml

※2 清涼飲料の耐熱1,500ml・2,000ml、無菌500ml・2,000ml、酒類4,000ml

図3. 指定PETボトル・主要17種の軽量化目標と実績（2025年度）

用途		サイズ	2004年度重量	2025年度目標	
清涼飲料	耐熱	350ml	25.1g	90%	91.9（目標値より+1.9）
		500ml	27.5g	91%	92.2（目標値より+1.2）
		1,500ml	55.7g	87%	目標達成 86.6
		2,000ml	63.5g	84%	目標達成 78.8
	耐圧	500ml	31.1g	73%	77.9（目標値より+4.9）
		1,500ml	48.3g	89%	90.3（目標値より+1.3）
	無菌	500ml	25.2g	72%	目標達成 69.6
		2,000ml	51.7g	60%	目標達成 58.5
酒類	酒類	2,700ml	89.9g	83%	88.2（目標値より+5.2）
		4,000ml	138.9g	94%	目標達成 86.8
	みりん	1,000ml	36.2g	95%	95.9（目標値より+0.9）
		1,800ml	78.2g	88%	95.2（目標値より+7.2）
しょうゆ	しょうゆ	500ml	25.0g	85%	88.5（目標値より+3.5）
		1,000ml	33.0g	88%	89.0（目標値より+1.0）
		1,800ml	77.0g	85%	86.3（目標値より+1.3）
	しょうゆ加工品※	500ml	26.6g	90%	91.8（目標値より+1.8）
		1,000ml	38.5g	88%	95.9（目標値より+7.9）

PETボトルリサイクル推進協議会 調べ

※ しょうゆ加工品の容器基準重量は、2008年度重量とした。（第2次自主行動計画で軽量化目標値を設定）

環境負荷増大の抑制

2025年度の清涼飲料用PETボトルの出荷本数は、266億本となり、3R推進のための自主行動計画を定めて取り組みを開始した2004年度比で1.80倍になっています。一方で、耐熱ボトルから無菌ボトルへのシフトなどを含めた軽量化の効果および容器サイズの多品種化による構成変化などにより、出荷ボトル重量は1.22倍と抑えられています。

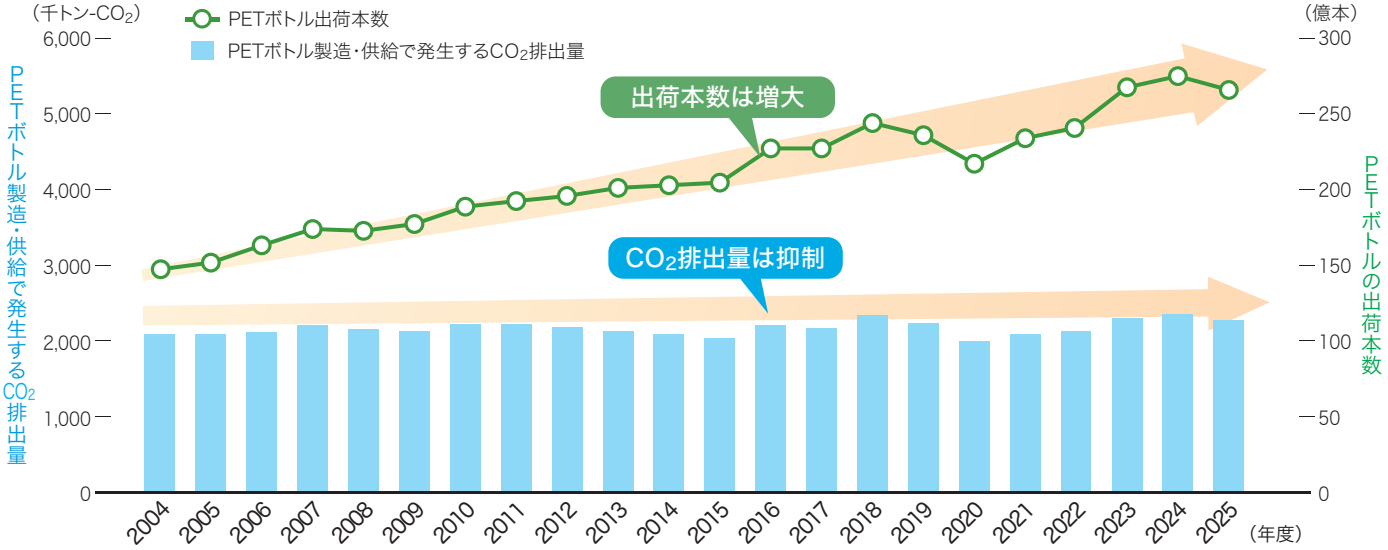
また、その原油採掘からボトル製造・供給に至るまでのCO_2排出量は、2,282千トンと同1.09倍でした(表2)。

このようにPETボトルは、2004年度から需要が伸びてきましたが、軽量化をはじめとする省資源・省エネルギーの取り組みの効果により、CO_2排出量が抑制されているのが分かります(図4)。

表2. 2025年度と基準年(2004年度)との環境負荷(CO_2排出量)比較

		2004年度	2025年度	2025/2004比
PETボトル出荷量	億本	148	266	1.80倍
	千トン	482	589	1.22倍
環境負荷(CO_2排出量)	千トン-CO_2	2,089	2,282	1.09倍

図4. 清涼飲料用PETボトルの出荷本数と、その環境負荷(CO_2排出量)の推移



PETボトルリサイクル推進協議会 調べ

5 Reuse(リユース)

PETボトルのリユースに関する現状の判断は変わらず

リユースが困難なPETボトル

(1) 安全性の問題

リターナブルPETボトルは予期せぬ汚染(悪意はなくとも使用済みPETボトルを農薬など、人体にとっての危害物質の一時保管に用いることなど)があった場合、PETボトルに吸着された汚染物質を、ボトル状態での洗浄技術・検査技術では100%除去することは困難です。

(参考)食品衛生学雑誌Vol.52, No.2

(2) 環境負荷の問題

リターナブルPETボトルが、ワンウェイPETボトルより環境負荷が小さくなるのは、空ボトルの回収率が90%以上で、販売拠点から工場までの返送距離が100km未満という非常に限られた条件下でのみです。

(参考) 環境省「ペットボトルを始めとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」中間取りまとめ2009年8月

6 Recycle（リサイクル）

使用済みPETボトルのリサイクル
（1）2025年度リサイクル率は87.4%

目標「リサイクル率85%以上の維持」を達成

2025年度の国内の指定PETボトルの販売本数は輸入製品も含め前年度より9億本減の278億本となり、分母となる指定PETボトル販売量は前年度より19千トン減の633千トン（前年度比3.0%減）でした。一方、分子となるリサイクル量は、国内再資源化量471千トン（前年度比5.5%増）、海外再資源化量82千トン（同25.4%減）にて合計で553千トン（同0.6%減）でした。

その結果、リサイクル率は87.4%となり、前年度に続き85%以上の目標を達成することができました（図5）。

国内外の再資源化量

2018年1月からの中国の固形廃棄物輸入禁止にともない使用済みPETボトルの輸出量の減少により、海外再資源化量は減少傾向にあります。一方、使用済みPETボトルを新たなPETボトルへ再生するボトルtoボトルへの需要により国内再資源化量は増加傾向にあります（図6）。

回収・リサイクルに関する推進協議会調査の強化

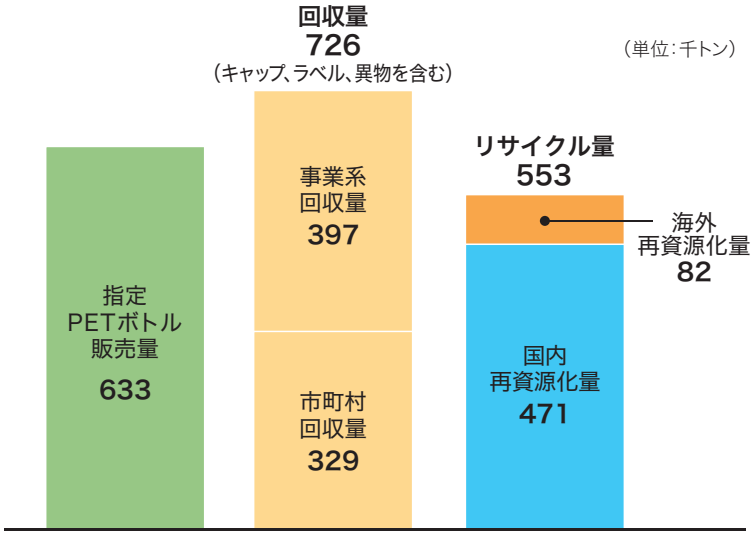
2025年度の回収量調査にあたって、市町村回収量は環境省発表の分別基準適合物量の「速報値※」を使用するとともに、使用済みPETボトルの回収・再商品化を行う事業者へアンケート調査を行い、国内・海外向け回収量を集計しています（※「速報値」は翌年発表される「確定値」に基づき再計算して、前年報告の2024年度リサイクル率85.1%が、85.3%に修正となっています）。

また、輸出量調査にあたって、使用済みPETボトルのフレーク品については、財務省貿易統計値を使用し、別途、PETくず輸出事業者に輸出量などのアンケート調査を実施し集計しています。

事業系（自動販売機、オフィス、スーパー・コンビニなど）からの回収量は、推進協議会での調査以外では得られることができません。事業者の業務内容の変更や事業の撤退などがあり、毎年調査先を更新しています。また、ヒアリング調査にて事業者との信頼関係を構築するなど、捕捉量の向上、精度アップのための活動を続けていきます。

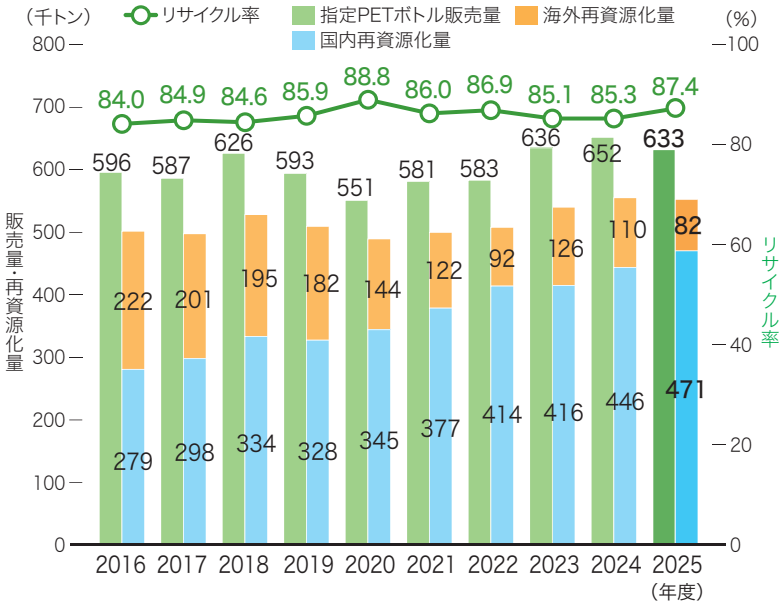
推進協議会では3R推進のため、自主行動計画2030の中でも、引き続き「リサイクル率85%以上の維持」を目標として掲げています。推進・啓発活動を実施し、目標達成に努めます。

図5. 回収・リサイクルの概要



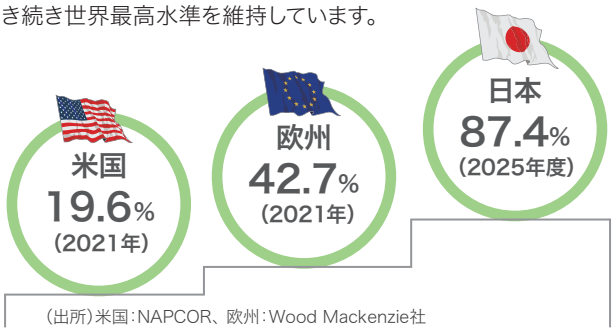
$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{リサイクル量 553千トン}}{\text{指定PETボトル販売量 633千トン}} = 87.4\%$$

図6. リサイクル率と国内・海外再資源化量の推移



日米欧のリサイクル率の比較

日本のリサイクル率は欧米と比較すると、引き続き世界最高水準を維持しています。



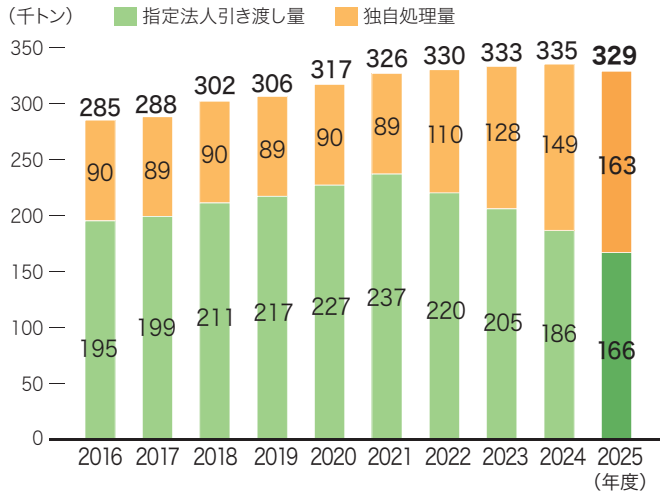
（出所）米国：NAPCOR、欧州：Wood Mackenzie社

市町村の指定法人引き渡し量は減少

2025年度の使用済みPETボトルの市町村分別収集量のうち、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会（以下、指定法人）への引き渡し量は、前年度より20千トン減の166千トンとなりました。

一方、指定法人ルート外の独自処理量は、市町村と飲料メーカー・再生処理事業者との連携によるPETボトルの水平リサイクルへの取り組み増にともない、前年度より14千トン増の163千トンとなり、独自処理比率は49.6%（前年度より5.1ポイント増）でした（図7）。

図7. 指定法人引き渡し量および独自処理量の推移



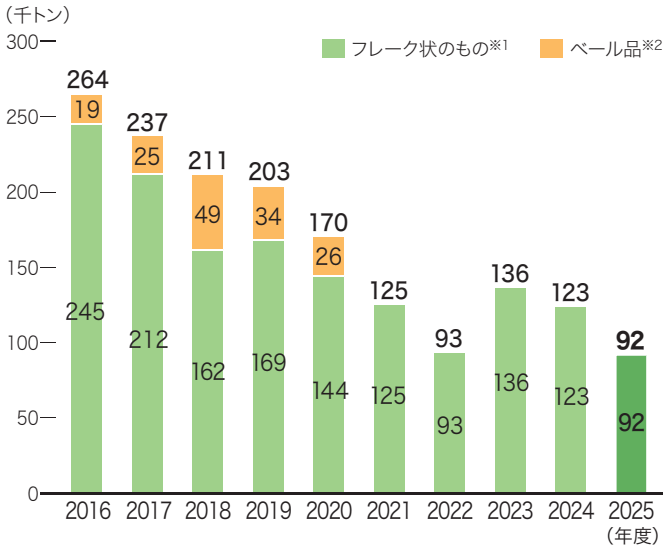
（出所）指定法人引き渡し量：公益財団法人日本容器包装リサイクル協会

使用済みPETボトルの輸出量は減少

使用済みPETボトルの輸出量（フレーク状のものとベール品の合計）は、2022年度まで年々減少していましたが、2023年度は増加に転じました。しかし、その後もまた減少傾向にあり、2025年度は前年度より32千トン減の92千トン（前年度比74%）でした。

なお、2021年1月から施行された「プラスチックの輸出に係るバーゼル法該非判断基準」により、使用済みPETボトルのベール品は規制対象となり、輸出できなくなりました。

図8. 使用済みPETボトルの形態別輸出量推移



（出所）※1.財務省貿易統計、※2.一般社団法人日本環境衛生センター集計

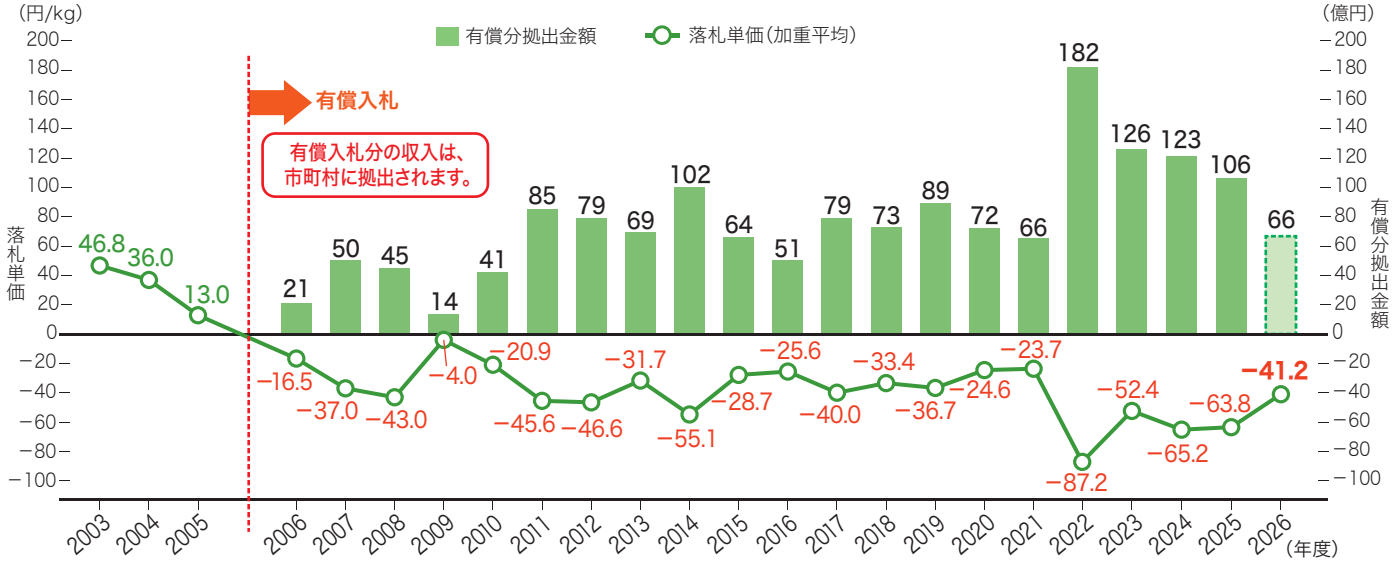
指定法人落札単価の動向

2025年度のPETボトルの落札単価（加重平均；消費税抜き）は、通期−63.8円／kg（上期：−75.4円／kg、下期：−49.5円／kg）でした。

2026年度は、PET樹脂価格の下落傾向や使用済みPETボトル市場の需給軟化を背景に、上期の落札単価は−31.7円／kgとなりました。一方、下期は中東情勢の緊張にともなう原油高によるPET樹脂価格の高止まりや、使用済みPETボトルの需要増を受け、落札単価は−52.4円／kgへと上昇しました。

その結果、通期の落札単価は−41.2円／kgとなり、2025年度と比較して約23円／kg下落しました（図9）。

図9. 指定法人の落札単価と有償分拠出金額



（出所）公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
※落札単価は消費税抜き表示。2026年度の有償分拠出金額は推進協議会の推計値。

(2) 国内向け再生PET樹脂利用量調査

国内での具体的製品別　再生PET樹脂利用量423千トンまで調査

推進協議会は再商品化事業者や再商品利用事業者に、回収されたPETボトルが国内で具体的に何にどれだけ再利用されているかを調査しています。2025年度の使用済みPETボトルから国内で再資源化された量は、471千トンと推定しており、そのうち423千トンまで確認することができました。

各用途別の調査量を、PETボトル（ボトルtoボトル）、シート、繊維、成形品などの製品形態群でくくり、2025年度の利用量とともに表3に示しました。

2025年度は、ボトルtoボトルによる指定PETボトルへの利用は253.1千トン（前年度比2.9%増）となりました。また、食品用トレイなどのシート用途の利用量は117.0千トン（同7.8%増）、衣類などの繊維用途の利用量は31.4千トン（同6.0%減）、洗剤ボトルや文房具などの成形品は、9.7千トンでした。

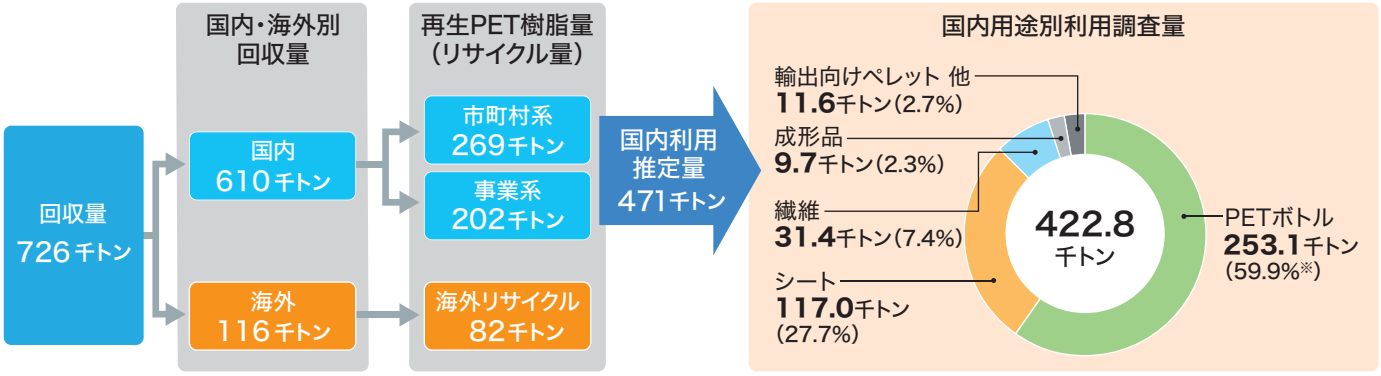
※表3や図10におけるPETボトル59.9%は調査で得られた国内利用量の合計に対するボトルtoボトルへの利用量の割合です。なお、指定PETボトル販売量を分母としたボトルtoボトル比率は40.0%です（P12参照）。

表3. 2025年度具体的製品例と利用量（調査結果）

（単位：千トン）

製品例		2024年度 利用量	2025年度 利用量	2025年度 構成比
PETボトル（ボトルtoボトルによる指定PETボトル）		246.0	253.1	59.9%※
シート	食品用トレイ（卵パック、青果物トレイなど）	95.7	104.1	
	ブリスターパック（日用品などブリスター包装用）	5.6	4.0	
	食品用中仕切り（カップ麺トレイ、中仕切りなど）	2.0	2.6	
	その他（工業用トレイ、文具・事務用品など）	5.2	6.3	
		108.5	117.0	27.7%
繊　維	衣類（ユニフォーム、スポーツウェアなど）	20.3	12.9	
	自動車・鉄道関連（天井材や床材など内装材、吸音材）	6.2	8.0	
	インテリア・寝装具（カーペット類、カーテン、布団など）	2.9	2.8	
	土木・建築資材（遮水・防草・吸音シートなど）	1.2	1.5	
	家庭用品（水切り袋、ワイパーなど）	1.7	0.7	
	身の回り品（エプロン、帽子、ネクタイ、作業手袋など）	1.1	0.4	
	その他（糸、不織布など）	0.0	5.0	
		33.4	31.4	7.4%
成形品	ボトル（洗剤、シャンプーなど）	9.9	6.5	
	一般資材（結束バンド、回収ボックス、搬送ケースなど）	0.9	1.3	
	土木・建築資材（排水管、排水枡、建築用材など）	0.1	0.1	
	その他（文房具、事務用品、園芸用品、ごみ袋など）	18.0	1.7	
		28.9	9.7	2.3%
包装フィルム・ラベル		4.4	2.7	0.6%
輸出向けペレット		4.8	8.8	2.1%
他	その他（添加材、塗料用など）	0.2	0.0	0.0%
合計		426.2	422.8	100%

図10. 2025年度使用済みPETボトルの回収／再商品化の流れ



PETボトルリサイクル推進協議会 調べ

※国内利用推定量471千トンに対し、用途別利用調査量は423千トンにてカバー率は89.7%です。

(3) PETボトルリサイクル推奨マークと再生PET製品のグリーン購入

PETボトルリサイクル推奨マークの運用

PETボトルリサイクル推奨マーク（登録商標）は、使用済みのPETボトルが25%以上使用されている製品につけることができます。製品にPETボトル再利用品が使用されていることを伝えるとともに消費者が商品を購入する際の目安となります。マーク取得の認定はPETボトル協議会が行っており、最近は環境・リサイクル意識の高まりとともに、登録商品数が高いレベルで推移しております。

PETボトル
再利用品

PETボトルリサイクル推奨マーク

表4. PETボトルリサイクル推奨マーク 登録商品数

	2023年度	2024年度	2025年度
登録商品数（件）	1,662	1,721	1,612

■ 2025年度推奨マーク新規認定商品事例



PETボトル



ステッカー



冷蔵庫マット

グリーン購入法における再生PET製品

グリーン購入法は、持続可能な社会構築のため、国などの機関に環境配慮物品やサービスの調達（グリーン購入）を義務付けるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めるよう求めています。2026年2月に発表された22分野291品目が対象となっており、各分野の再生PET樹脂の基準使用率をクリアした製品は、グリーン購入法適合商品としてアピールすることができます。推進協議会のWebサイトでは、グリーン購入法適合品の表示や、グリーン購入についての民間組織であるグリーン購入ネットワークのWebサイトへのリンクを行っています。

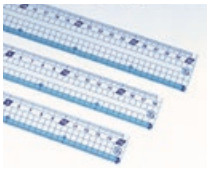
■ グリーン購入法適合商品事例



ネット



空容器リサイクルボックス



定規



粘着テープ



ごみ袋

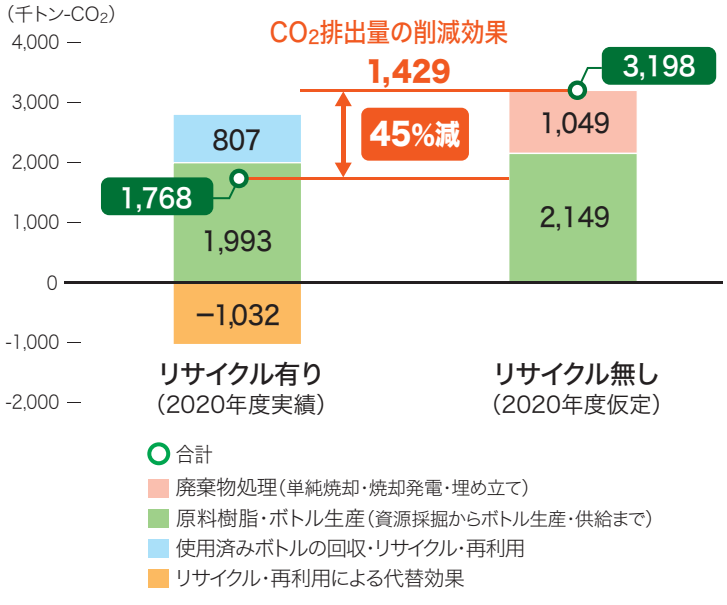
(4) 環境負荷の側面からみたリサイクル効果の評価

国内で生産、消費されるPETボトルの資源採掘から、製造、廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体での環境負荷（CO_2排出量）について、リサイクルの有無による比較を行った事例を紹介します（図11）。

使用済みPETボトルをリサイクルせず、すべて廃棄された場合（図中右側）のCO_2排出量は、原料樹脂製造とボトル生産でのCO_2排出量に加えて、PETボトルが焼却されることにより、さらに多くのCO_2が発生してしまいます。

一方、現状でのリサイクルの場合（左側）は、回収・リサイクルの段階でのCO_2排出はありますが、再生材として次の製品に利用することによって、新たに石油資源から原材料を製造しなくても良いので、その製造分の排出量が削減できたことになります（図では代替効果としてマイナスと表示）。その結果、リサイクルした場合は差し引き1,768千トンの排出量とリサイクルしない場合に比べて約半分となり、その削減効果が非常に大きいことが分かります。

図11. CO_2排出量削減効果



※「原料樹脂・ボトル生産」には、ラベル・キャップとこれらの原料樹脂の生産を含む。
※「回収・リサイクル・再利用」の「再利用」は、再生材料を用いた繊維・シートなどの生産を意味する。

(5) 分別排出からはじまるPETボトルリサイクルの流れ

図12. PETボトルリサイクルの流れ

識別表示

PETボトルの識別表示マーク



PETボトルには、
ラベル部分やボトル本体に
このマークがついています。



［PETボトル］
の法定識別マーク

［プラスチック製容器包装］
の法定識別マーク



使われている部位

JIS方式による
［材質表示］
（任意での表示）

■ 指定表示製品

飲料
- ■ 清涼飲料
- ■ 果汁飲料
- ■ 酒類
- ■ 牛乳・乳飲料 等

特定調味料
- ■ しょうゆ
- ■ しょうゆ加工品（めんつゆ等）
- ■ アルコール発酵調味料
- ■ みりん風調味料
- ■ 食酢・調味酢
- ■ ノンオイルドレッシング

（参考）プラスチックの識別マーク



指定表示製品（飲料、特定調味料）
以外のPETボトルなどの、
その他プラスチック製容器包装に
このマークがついています。

分別排出［消費者］

**市町村の分別方法にしたがって
排出してください。**

1 キャップは必ずはずして、
ラベルはできるだけ
はがしてください。



2 中をすすいでください。



3 横方向につぶしてください。



※つぶすとラベルがはずしやすくなります。

※取り外しにくいしょうゆボトルの中栓や、キャップをはずした後に残るリングなどは無理に取る必要はありません。そのまま排出してください。口元の白い部分もPET樹脂です。

4 市町村の**PETボトル収集日**に
排出してください。



分別収集［市町村］



収集



選別（異物除去）



圧縮梱包（ベール化）



保管

分別基準適合物



ベール品

※ ベールとはPETボトルを圧縮・梱包したものです。（bale：俵、梱包）

再商品化[事業者]

■ 再商品化工程

- 塩ビボトル除去
- 着色ボトル除去
- 手選別
- 粉砕
- 風力分離
- 洗浄
- 比重分離





再商品化製品



フレーク

※ボトルを約8mm角に裁断したもの



ペレット

※フレークを加熱融解して粒状にしたもの

利用製品

水平リサイクル（ボトルtoボトル）

PETボトル

化学的再生法（ケミカルリサイクル）



PETボトルの原料

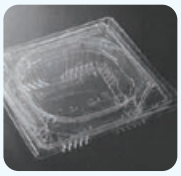
物理的再生法（メカニカルリサイクル）

飲料用PETボトル



カスケードリサイクル

シート



食品用トレイ



卵パック



製品のトレイ



下敷き

包装フィルム・ラベル類



包装用フィルム



粘着ラベル素材



日用品用パウチ



食品用包材

繊維



アウター



ワーキングウェア



白衣



バッグ



肌着



ネクタイ

成形品



台所用洗剤ボトル

セロテープ®台



定規





空容器リサイクルボックス

7 水平リサイクル

2030年度までにボトルtoボトル比率50%を目指す
2025年度ボトルtoボトル比率は40.0%

ボトルtoボトルリサイクルは253千トン

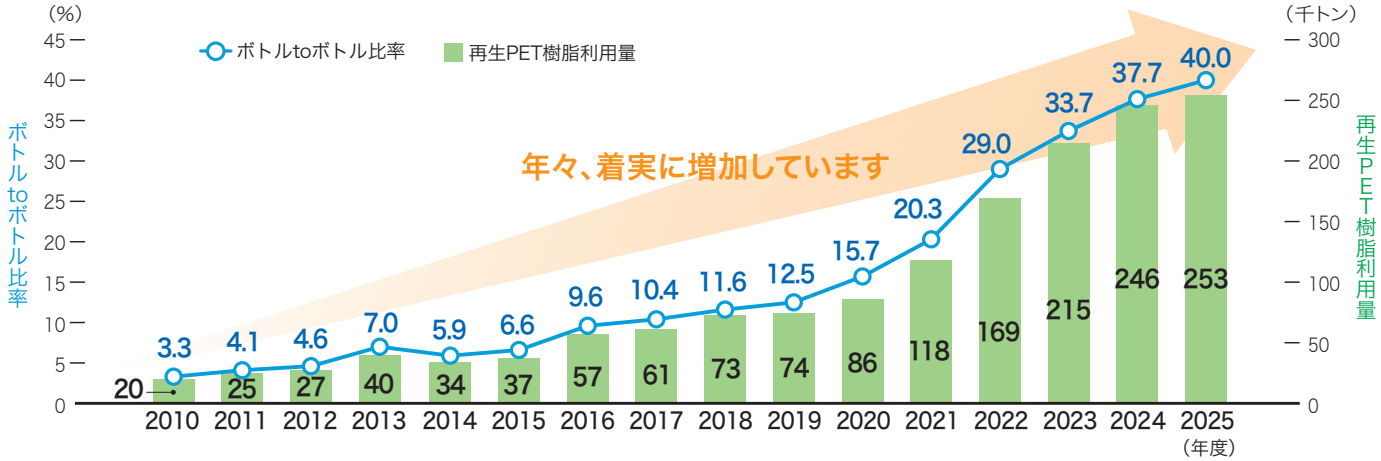
2025年度のボトルtoボトルリサイクル量は、253千トン（前年度比2.9%増）でした。国内で販売された指定PETボトル量633千トンに対するボトルtoボトル比率は、40.0%（前年度より2.3ポイント増）となりました。

水平リサイクルであるボトルtoボトルは、繰り返しリサイクル可能なので資源有効利用（繰り返し利用）という観点から優れたリサイクル手法です。

2021年4月に（一社）全国清涼飲料連合会が「2030年ボトルtoボトル比率50%宣言」を発表し、推進協議会も同じ目標を掲げ取り組んでいます。飲料メーカーの積極的な取り組みとそれに追従した再生PET樹脂の生産能力の増大により、さらにボトルtoボトルリサイクルが推進されると考えます。

ただし、回収された使用済みPETボトルに汚れボトルや異物が混入していると再生PET樹脂を製造する際に作業効率の低下や廃棄物が増えることから、質の良いPETボトルの回収が必要です。特に自動販売機からなどの事業系回収PETボトルの品質向上が課題となっています。

図13. ボトルtoボトルへの再生PET樹脂利用量とボトルtoボトル比率の推移



8 有効利用

2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す
2025年度 指定PETボトルの有効利用率 99.0%

有効利用とは、使用済みPETボトルをリサイクルおよび熱回収も含め利用することです。

2025年度のリサイクル量は553千トンでした。リサイクルされなかった量は合計80千トンでその内訳は、リサイクル工程で発生する残渣が27千トン、残りの53千トンは可燃ごみ・不燃ごみとして排出された量として計算します。

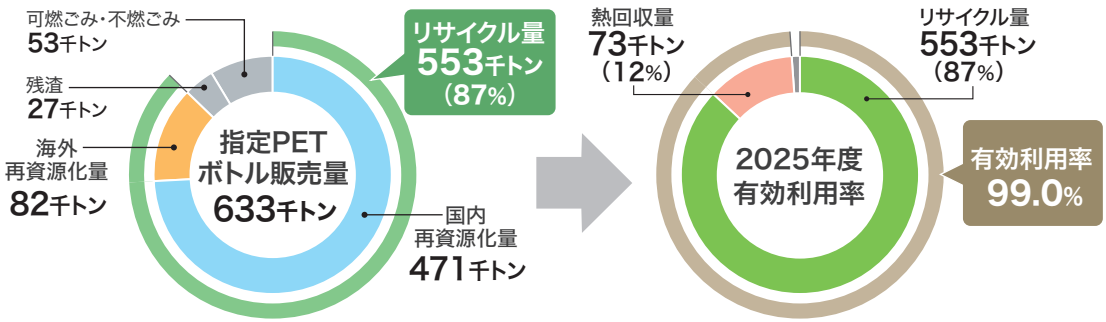
残渣で熱回収された量は23千トン（海外分は含まず）、可燃ごみ・不燃ごみで熱回収された量は環境省の可燃ごみの有効利用率95%を使用し50千トン、計73千トンを熱回収量と推定しました。

その結果、2025年度の指定PETボトルの有効利用率は、99.0%になりました。残りは、概ね単純焼却や埋め立て処理されています。

有効利用率＝

$$\frac{\text{リサイクル量 553千トン} + \text{熱回収量 73千トン}}{\text{指定PETボトル販売量 633千トン}} = 99.0\%$$

図14. 有効利用率の算出（概略図）



（1）自主行動計画2030策定にあたって

自主行動計画2030は2026年5月に3R推進団体連絡会から公表しました。策定時には2024年度までの実績をもとに計画立案しましたが、この度2025年度実績が得られましたので、その結果も踏まえて5か年計画の内容について、数値目標設定にあたっての考え方などについて詳細にご紹介します。

これからの5か年に向けた取り組み方針

3R自主行動計画として、従前からのリデュース、リサイクルの数値目標に加えて、2021年度からは水平リサイクルであるボトルtoボトルの目標も掲げて活動してきました。今後もなお一層の3R推進活動を継続しますが、資源循環の本質である「石油由来樹脂の使用量削減」の考え方を主要指標として掲げ、これをメインターゲットとして、3R・資源循環を進めていく方針としました。それを実現するための具体的な目標としての位置づけで、従来からの「軽量化率」、「リサイクル率」、「ボトルtoボトル比率」の指標も引き続き設定し、資源循環を推進していきます。

新たな指標「新規石油由来樹脂削減率」

将来に向けた持続可能な資源循環を目指すにあたって、プラスチックの原料である石油資源の削減が最重要課題と認識しております。そのために石油由来樹脂削減の指標として、**（1）「新規石油由来樹脂削減率」**を定義し、目標設定しました。

この削減には、従来からの軽量化による樹脂削減（軽量化率）、原料としての再生材利用（リサイクル率、ボトルtoボトル比率）および現在は、まだごく僅かの利用ですがバイオマス材の利用（植物由来樹脂）を推進し、2004年度比で新規石油由来樹脂削減率65%を目指します。

目標のイメージはP3に図示しましたが、直近までの実績結果は以下図15になります。軽量化の効果および再生材（ボトルtoボトル）の効果で、2025年度までに57%と大幅な削減を達成していますが、さらに2030年度までになお一層の努力で65%の目標達成を業界一丸となって推進します。

上記の新規石油由来樹脂削減率を達成するための個別目標として、従来からの指標項目についても設定しています。

(1)新規石油由来樹脂削減率：65%
(2)軽量化率：2004年度比30%
(3)リサイクル率：85%以上の維持
(4)ボトルtoボトル比率：50%

リデュース［軽量化率］

自主行動計画2025では、指定PETボトル全体で25%（2004年度比）以上の軽量化目標に対して2025年度は28.3%と達成しました。一方で、この目標達成のための主要用途別の個別目標については、P4図3に示すように、対象容器17種のうち5種のみが目標を達成していますが、残りの品種は目標値に達していません。用途、容量によって軽量化が進めやすいボトルと、内容物によっては品質保持などの面から軽量化が難しい製品も存在しています。また、全体的に軽量化の限界に近づいていることから、個別指標は業界としては設定せず、全体の目標は30%を目指すこととします。

リサイクル［リサイクル率］

PETボトルは単一素材で透明であるため、他のプラスチック容器に比べてリサイクルしやすく、10年以上にわたりおよそ85%という高いリサイクル率を維持しています。一方、まだ可燃ごみや不燃ごみへの混入も多く、さらなる高い目標数値を掲げるのは難しい状況と思われますので、前期同様に引き続き85%以上を目指します。

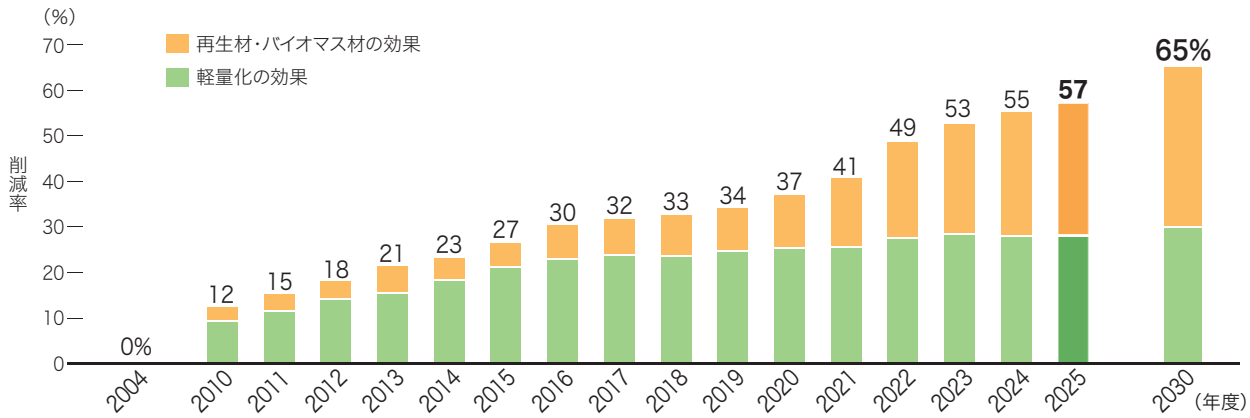
水平リサイクル［ボトルtoボトル比率］

2025年度は40.0%と順調に推移しています。2030年度までに50%を目指す目標を引き続き推進していきます。

有効利用率に関して

自主行動計画2025策定時に、2030年度までにPETボトルの100%有効利用率を目指すとしてきました（リサイクル＋熱回収）。2025年度の実績は99.0%という非常に高い有効利用率ですが、自治体の焼却炉での単純焼却（発電・熱利用無し）や海外のリサイクル工程での残渣処理の影響がある限りは、100%有効利用が難しく、今後は数値実績のみを公表します。

図15. 新規石油由来樹脂削減率



(2) 技術検討委員会の活動事例

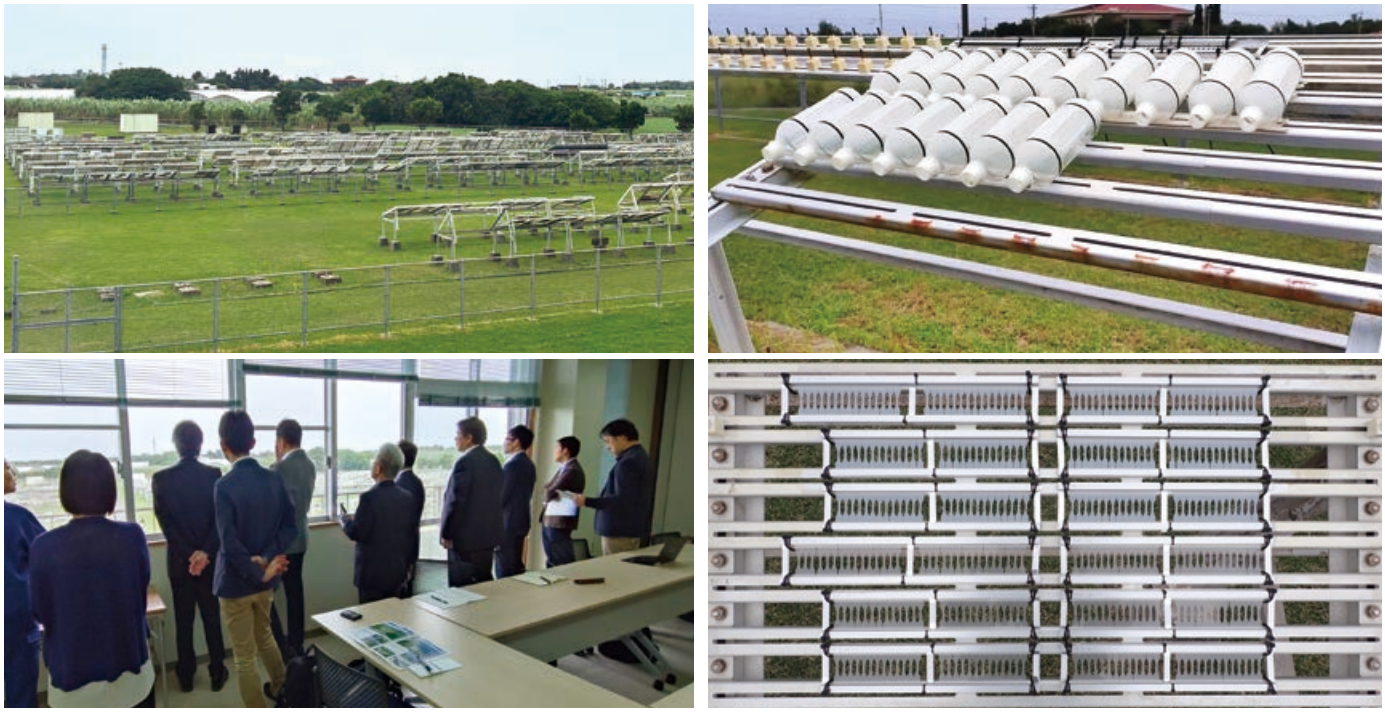
推進協議会の技術検討委員会では、毎年会員の飲料メーカーや再生樹脂製造事業者(リサイクラー)の工場を訪問し、見学を兼ね委員会を開催しています。2025年度は、11月27日から28日にかけて、沖縄県のフェイス沖縄株式会社(リサイクラー)、海洋プラスチックごみ問題でPETボトルの耐候性試験を依頼している一般財団法人日本ウエザリングテストセンターを訪問しました。

日本ウエザリングテストセンターは、国際規格(ISO/IEC17025)に適合した品質の大気暴露試験を行える国内唯一の第三者試験機関です。工業材料や製品の質的向上と産業の発展を目的としています。

大気暴露試験は、国内4か所の試験場(銚子、宮古島など)で、屋外環境による材料の経時変化を調査します。その他、促進劣化試験や物性測定・研究なども行っています。

今回は、沖縄県宮古島の大気暴露試験場を見学しました。宮古島暴露試験場での大気暴露試験は、2020年11月からPETボトル60本とPETボトルから切り出した試験片160本で試験を開始し5年が経過しました。暴露試験の結果は、前報告書などで紹介している通り、表面上に微細なクラックは発生するものの、ボトルや試験片が崩壊するような大きな劣化は見られないことを報告しています。

これらの検討は、金沢大学の比江嶋教授とマテリアルライフ学会の有識者の方々との取り組みとして学会などでも発表しています。PETボトルの大気暴露試験は、2030年まで10年間継続する予定です。



日本ウエザリングテストセンター宮古島暴露試験場の様子(写真右上:PETボトル、写真右下:試験片)

ステークホルダーからのご意見



金沢大学 理工研究域
フロンティア工学系 教授
比江嶋 祐介 氏

我々は屋外暴露試験を施したPETボトルの劣化状態をさまざまな分析手法を用いて研究しています。5年ほど屋外暴露した後でもPETボトルの見た目には大きな変化がなく、また十分な強度を保っていることから、非常に安定な材料であると考えられます。顕微鏡で観察すると、暴露時間1年ほどから、表面に数十マイクロメートル程度の非常に小さなクラックが生成しており、表面では徐々に劣化が進んでいることが分かりました。しかしながら、共焦点ラマン顕微鏡を用いて、厚さ方向の化学組成を分析したところ、表面から約20マイクロメートルまでの非常に浅い領域のみで結晶化が進んでいることが分かりました。高分子材料の劣化では、分子鎖の切断により結晶化が進む「化学結晶化」と呼ばれる現象がしばしば観察されますが、PETの表面でも同様の現象が進行したと考えられます。一方、数十マイクロメートルよりも深い内部では、暴露試験前とほとんど同じ状態を維持しており、PETボトルの劣化は最表面のみで局所的に進行しており、内部が健全状態を保っているために、崩壊しないことが分かりました。河川敷などに放置されたPETボトルは景観上大きな問題ですが、マイクロプラスチックの主要な発生源となる可能性は低いと考えられます。

(3) 情報発信・普及啓発に向けての多様な取り組みを推進

「PETボトルリサイクル年次報告書2025」記者説明会の開催

「PETボトルリサイクル年次報告書2025」の発行に合わせて、経団連会館（東京都千代田区）において、記者説明会を開催しました。20社24名のメディア関係者が出席して、2024年度の活動報告、ボトルtoボトルの今後の見通し、海洋プラスチックごみ問題の取り組み、使用済みPETボトル輸出状況などの説明を行いました。



「PETボトルリサイクル年次報告書」の記者説明会（2025年11月19日）

東京都中央区「子どもとためす環境まつり」への参加

昨年度に引続き、中央区環境保全ネットワークが主催する「子どもとためす環境まつり」が、中央区立中央小学校で開催されて、当日は約500名の来場者がありました。PETボトルリサイクルに関するクイズを通して、PETボトルのリサイクル率の高さなどに大きな関心を持っていただきました。また、当協議会の活動に対する重要性を小中学生、保護者、教育関係者などの皆さまにご理解いただけたと感じています。



中央区「子どもとためす環境まつり」の模様（2025年10月25日）

広報誌「RING」の発行

2025年度広報誌「RING」を継続して発行しました。2026年6月発行のVol.44では、「PETボトルリサイクルの環境教育」の代表事例として小中学校の取り組みをはじめ、郡山市・宝塚市のリサイクル活動の取り組み、さらには、再商品化事業者紹介に関して、株式会社サーキュラーペットの再生PET樹脂全量の「ボトルtoボトル」を目指すための再商品化事業の取り組みなどを紹介しました。



「RING」Vol.44

(4) 3R推進団体連絡会との連携

自主行動計画フォローアップ報告・記者説明会

3R推進団体連絡会（容器包装8素材で構成）は、容器包装3Rのための自主行動計画（2021～2025年度）の進捗状況について、2025年12月19日に経団連会館においてフォローアップ報告を行いました。

第20回容器包装3R推進フォーラム

「容器包装3R推進フォーラム」は、自治体・市民・事業者などのさまざまな主体が連携して容器包装3Rを推進する場づくりを目的として2006年から開催しています。2025年度は会場およびオンラインでの参加に加えて、後日の録画配信と多数の方に出席いただきました。



フォーラムの様子

国立環境研究所の田崎智宏室長に基調講演をお願いし、経済産業省、環境省、ならびに農林水産省の担当部署からのお話を伺うとともに、アサヒグループジャパン株式会社、新宿区、北海道大学の博士課程の学生さんから事例報告をいただきました。

容器包装3R交流セミナー

市民、NPO団体、国、都道府県、市町村の行政機関、事業者など多様なステークホルダーが一堂に会して議論をする場として、「容器包装交流セミナー」を定期的に開催しています。2025年度は、大津市（7月）、山口市（10月）、千葉市（3月）にて、貴重な意見交換を行うことができました。



交流セミナーの様子

■ リサイクル率、回収率、有効利用率などの解説

消費者から排出されるPETボトルには、大別して2つの回収ルートがあります。一つは、容リ法に基づき市町村が回収するルートと廃掃法に基づき事業者が回収するルート（自動販売機横のリサイクルボックス、コンビニ、スーパーなどの店頭回収、オフィス、工場、交通機関など）です。これらは、資源として回収されリサイクルされます。

一方、可燃ごみ・不燃ごみに出されたものは、ごみ処理として焼却や埋め立てに回されます。さらに、これらから漏れたものとしてポイ捨てや台風などによって河川や海へ流出してしまうものがあります。

図16. 指定PETボトルのリサイクルの流れ（2025年度）

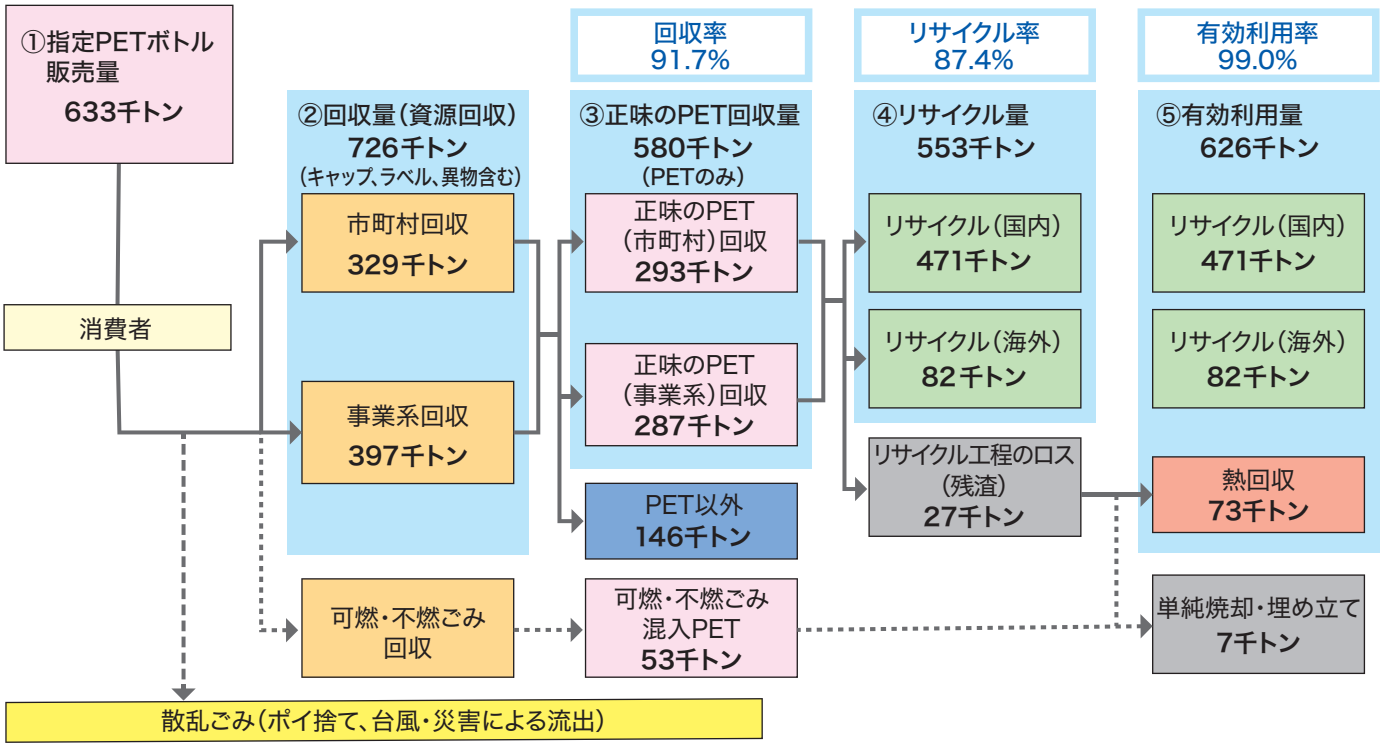
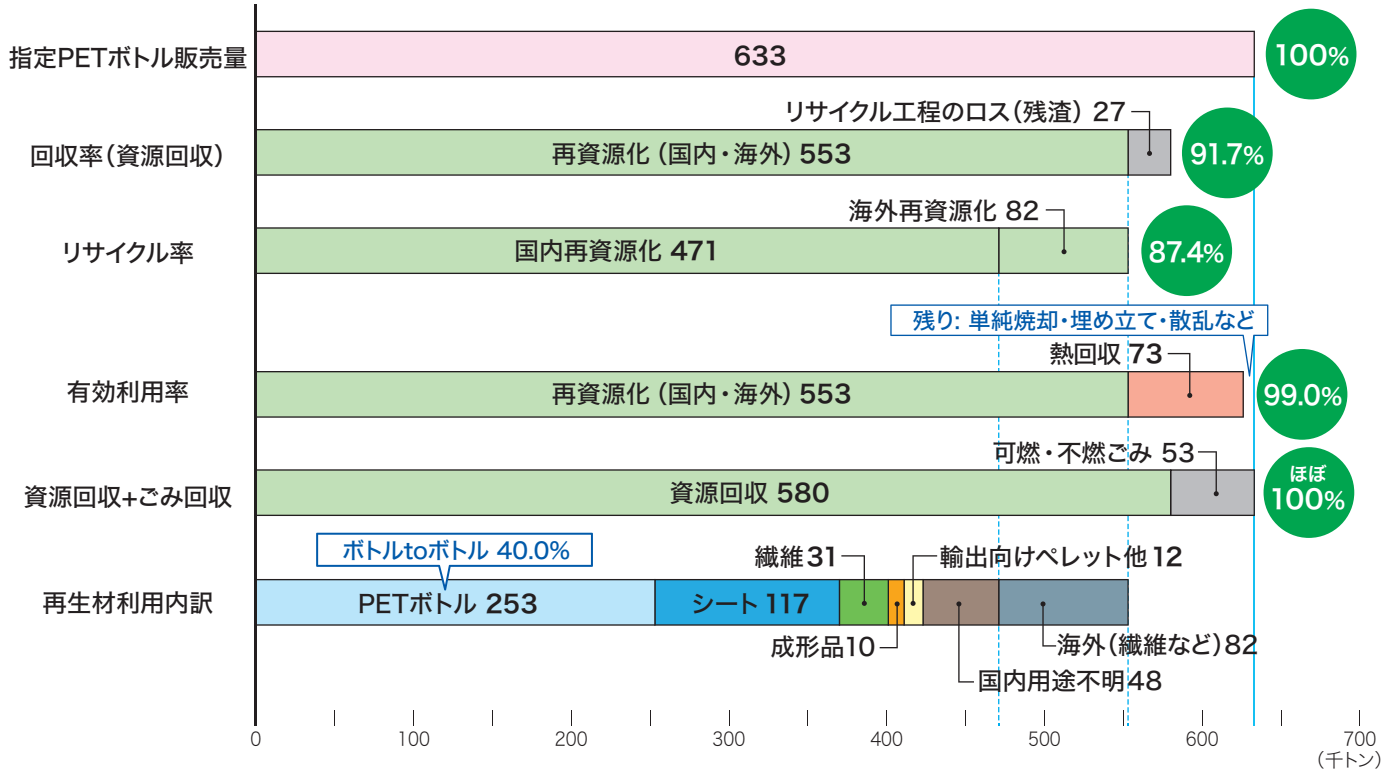


図17. 回収・リサイクル・有効利用とは



■ 樹脂の動向

表5. ボトル用PET樹脂需要実績推移

（単位：トン）

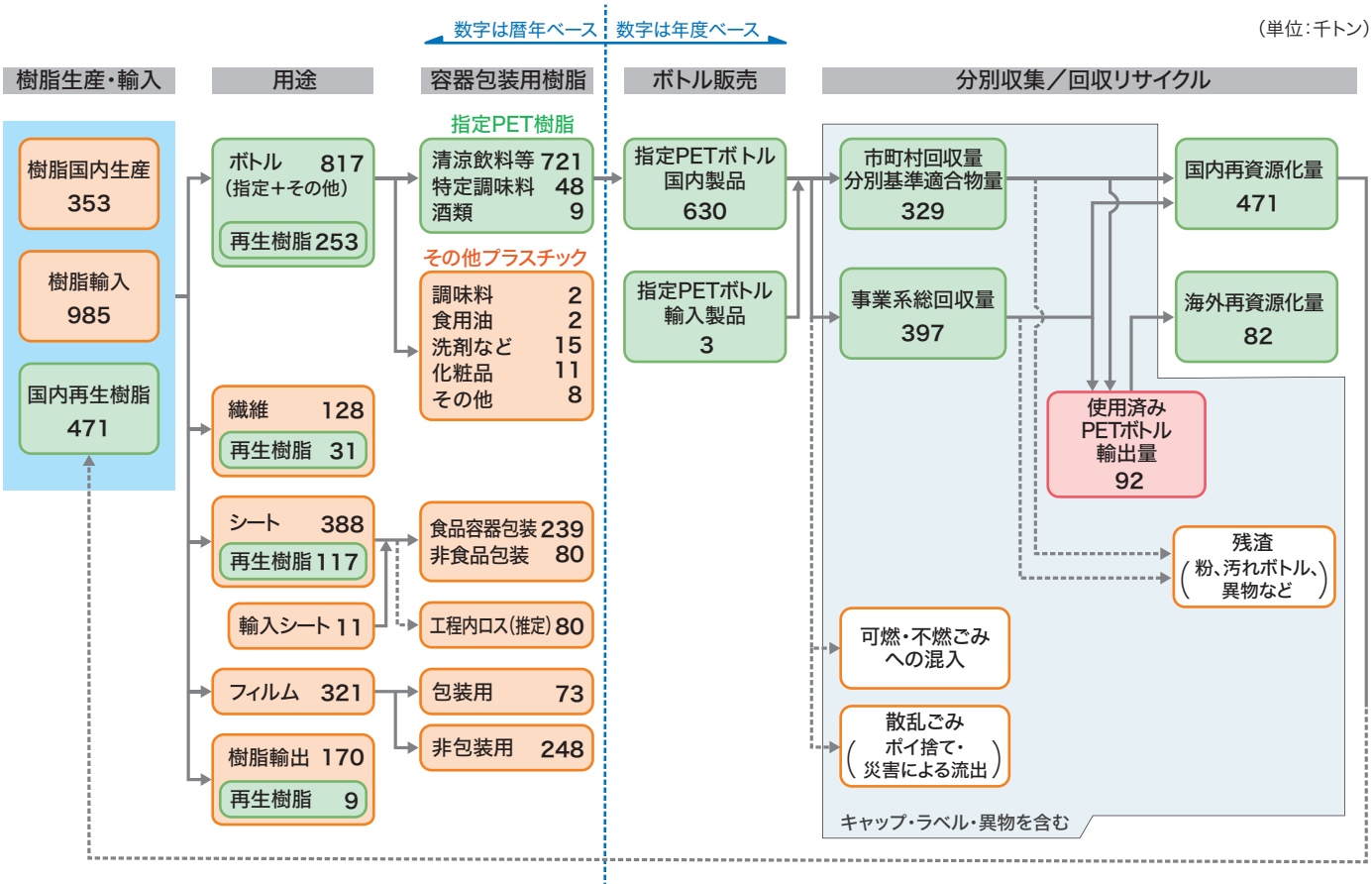
	年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
指定表示製品	清涼飲料等	584,413	606,065	652,908	665,794	623,396	641,550	667,614	674,793	642,171	**721,461**
	特定調味料	29,211	23,363	23,071	25,308	23,742	24,484	24,388	29,785	35,770	**48,226**
	酒類	15,409	13,050	9,918	10,074	5,999	9,902	8,753	7,886	8,190	**8,615**
	小計	629,033	642,478	685,897	701,176	653,137	675,936	700,755	712,464	686,131	**778,302**
その他	洗剤、シャンプー	10,511	9,058	9,683	11,807	9,703	11,796	16,074	11,767	12,643	**15,308**
	食用油	1,738	2,423	2,417	1,542	1,198	1,206	1,362	1,427	1,848	**1,903**
	調味料	15,380	18,275	17,636	12,969	16,265	15,743	19,282	8,151	3,330	**2,275**
	化粧品	10,756	17,204	15,988	13,175	13,578	14,840	16,634	12,041	11,532	**11,397**
	医薬品、その他	11,605	11,128	10,252	16,660	15,056	20,528	16,779	8,161	7,353	**7,845**
	小計	49,990	58,088	55,976	56,153	55,800	64,113	70,131	41,547	36,706	**38,728**
総合計		679,023	700,566	741,873	757,329	708,937	740,050	770,886	754,012	722,838	**817,030**

※数字は暦年ベース（1月～12月）で、輸入品を含む。（出所）PETボトル協議会
清涼飲料等とは、清涼飲料に果汁飲料および牛乳・乳飲料を含めたものです。特定調味料とは、しょうゆ、しょうゆ加工品、みりん風調味料、食酢・調味酢、ノンオイルドレッシング、アルコール発酵調味料です。
※過去10年分のデータを掲載しています。掲載以前のデータは推進協議会Webサイトをご覧ください。

HOME > 統計データ > ボトル用樹脂需要動向
https://www.petbottle-rec.gr.jp/data/demand_trend.html

図18. PET樹脂のマテリアルフロー（2025年）

（単位：千トン）



（出所）
○樹脂国内生産：経済産業省生産動態統計年報
○樹脂輸出入：財務省貿易統計
○国内再生樹脂：PETボトルリサイクル推進協議会
○繊維：経済産業省生産動態統計年報
○ボトル：PETボトル協議会
○フィルム：PETボトルリサイクル推進協議会による推定値
○シート：PETトレイ協議会
○分別基準適合物量：環境省速報値
○指定PETボトル国内製品・輸入製品：PETボトルリサイクル推進協議会
○事業系総回収量、国内・海外再資源化量：PETボトルリサイクル推進協議会
○使用済みPETボトル輸出量：財務省貿易統計

PETボトルのリサイクルに Webサイトをご活用ください

https://www.petbottle-rec.gr.jp

スマートフォンにも対応しています。

PETボトルリサイクル推進協議会のWebサイトは
「基礎知識」や「Q&A」「統計データ」「法律・ガイドライン」など
PETボトルに関するさまざまな情報を掲載しています。

ご希望の自治体・団体にポスターを配布！
PETボトルのリサイクル啓発にご活用ください。



A1サイズ



B1サイズ

ご希望の場合は、当協議会にお問い合わせください。

PETボトルリサイクル推進協議会

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル2階
TEL. 03-3662-7591　FAX. 03-5623-2885
E-mail. info-2@petbottle-rec.gr.jp

2026.11